

		学齢期前（就学前）	学齢期（就学）	成人期（就労）	高齢期	全般にかかる意見
障害児 障害者	発言内容		①小学校等で障害者等と接する機会をより充実させてはどうか。障害のある子とない子が、日常的に接することでお互いのことを理解できる。	①障害者の就労について、障害の程度が軽度か重度かの別まで踏み込んで考える必要がある。重度の障害者は、事業者に重度の障害者の雇用枠がないと雇用されない。多様な就労形態が必要。 ②“見守り”という考え方は、外から見て「元気かどうか」という視点に立つものだが、「元気かどうか」を、暮らしている“本人が発信”して、周りがそれを受け取るという考え方も必要ではないか。		①障害福祉サービスは、障害者手帳がなくても使えるものもあるので、障害者手帳の所持の有無にかかわらず、障害福祉の対象者を考えていく必要があるのではないかと。 ②ふれあい運動会を、持ち回りで様々な地域で実施してはどうか。⇔ 同じところで続けて、うまくいったら広めていくという考え方も重要。 ②障害者等に年に何回か接するだけだと「特別」な体験に感じる。「多様」という言葉は差を感じているから出てくる言葉。日常的に接する環境を「ふつう」と感じるようになるのではないかと。 ③ICTの活用により、音声や動画の共有や提供、テレビ電話による受診、情報の多言語化が可能になり、障害者や外国人の情報共有に役立つのではないかと。 ③10年後ICTの発展によるメリットを享受する人も一方で、高齢者や知的障害者など、同様には情報を受け取れない人への配慮が必要。 ④第5世代移动通信システムにより、ネットワークや動画サービスの発展が想定される。これを活かして、区民が障害者等と接する機会を増やすことはできないか。
	答申 イメージ		①区民は、子どもの頃からさまざまな機会を通じて、障害者等に接し、相互理解が深まっている。	①障害者等は、障害の種別や重さなど、個々の特性に合ったかたちで社会参加や就労をし、自分の能力を発揮している。 ②身近な地域の中での見守り・支えあい活動によって、支援が必要な人は、適切な相談・支援を受けている。また、見守られる側も、自らの状況について発信し、地域に受けとめられている。		①障害者等は、手帳の有無にかかわらず、多様なサービスの中から自分に合ったものを選択して利用している。 ②区民は、子どもの頃からさまざまな機会を通じて、多様な人々に接し、相互理解が深まっている。 ③区民は、言語や障害による壁がなく、ICTを活用して情報を入手している。また、多様な媒体により必要な情報を入手することも保障されている。 ④ICTを活用して、障害の有無にかかわらず、区民が相互に交流する機会が増えている。
高齢者	発言内容				①「面のネットワーク」の成功事例は、どういうよさがあるか、どういう要因でうまくいっているのか。それを永続的にするためには、どうしたらいいのかというようなシステム論の話も同時に見ていく必要があるかと思う。 ②民生委員として、誰でも来てもいいサロンを増やす等、高齢者と子どもの居場所づくりを地道にやっている。	①障害福祉サービスの考え方は、高齢者介護だけでなく、子どもや障害者等、すべての人を対象としている。すべての人を対象としたうえでどう稼働するのか。区のオリジナリティを出す必要があるのではないかと。 ①高齢者と子どもと一緒にすると、高齢者から「子どもがうるさい」と苦情が出ることもある。違うものを一緒にするときは慎重に進める必要がある。
	答申 イメージ				①地域ネットワークの成功事例が他の地域に共有され、区全体としてネットワークの質が高まっている。 ②地域には、誰でも気軽に集まることができる場所があり、地域住民により運営されている。	①すべての区民が、地域の中で健やかな暮らしができている。また、区民は、地域の中で、あるときは支える側、あるときは支えられる側として暮らせるような、垣根のない地域社会が築かれている。
その他 (生活困窮者・ 疾病療養者等)	発言内容					
	答申 イメージ					

健康・医療・福祉部会（第2回）審議内容の概要

○その他意見

- ①今の時代はリスク管理が先に来てしまっていて声をかけ合えないこともあるから、地域で支えあうために、仕組みやシステムが必要とされているのだと思う。少々のお互いさまと言合える寛容な雰囲気のある中野区になっていくと多様な生き方が受け入れられるのかなと思う。
- ②区の職員が地域団体等と連携して要支援者を発見するなどのアウトリーチ活動では、地域とつながりがなくて把握されにくい要支援者もいる。そういった方を必要な支援や専門機関とどう結び付けるかが課題だと思う。

○その他意見に対する答申のイメージ

- ①地域の中で、区民同士が互いに理解し、受け入れあい、困ったときに支えあえる良好な関係を築いている。
- ②区の職員が自ら地域に出て把握した、支援を必要としている人が、地域のネットワークの中で、適切な相談・支援を受けている。

※以下の意見は、佐藤委員からメールで個別にいただいた意見

- ・老々介護、障害者の介護、貧困の発生、病気と就労等、複合的な問題も発生し複雑化する福祉行政をワンストップ化するとともに、ひとつひとつの案件に複数の職員で対応する体制を作ってはどうか。
- ・ファミリーサポートのような有用な仕組みを、区からもっと広報してはどうか。
- ・有償ボランティアを推奨してはどうか。サービスを広く薄く担う点、誰でもできる気軽さ、社会に役立つ場を作り出すなど社会に有効なツール、高齢者などの生き甲斐作りや仲間作りの場にもなっていく。
- ・新しいまちづくりや学校統合などのインフラ整備にあたり、福祉のことも踏まえて検討を進めていくのはどうか。
- ・それぞれの人に個々の問題があるので、オートクチュールの対応が必要ではないか。